

## スポーツ健康学部

### I 2014年度大学評価委員会の評価結果への対応

2014年度評価の中から課題として出された「教育方法」について、学生モニター制度のグループインタビューによって浮かび上がった課題でもある受講者制限のある実技・実習授業の課題の検証を改めて行うこととする。

### II 現状分析

#### 1 理念・目的

1.1 理念・目的は、適切に設定されているか。

①学部（学科）として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が設定されていますか。

人々の生活に直接的かつ密接に関わる学問領域である「スポーツ健康学」の定義とともにその方向性を示す理念・目的が設定されている。

1.2 理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。

①どのように理念・目的を周知・公表していますか。

教授会をはじめとする学部内委員会、学生へは「新年度ガイダンス」「春学期終了ガイダンス」「秋学期終了ガイダンス」、学部パンフレット等を通して行っている。

1.3 理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

①理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。

教職員からは各コース会議と各コース長と執行部で構成される教務委員会および教授会において、さらに学生との懇談会および卒業生アンケートにおいて検証を行っている。

#### 2 教員・教員組織

2.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。

①学位授与方針およびカリキュラムを前提とした教員像、教員組織の編制方針を明らかにしていますか。具体的に説明してください。

学部設置認可に至る過程で学位授与方針およびカリキュラムを前提とした検討を十分にし、求める教員像と教員組織の編制方針を明確にしている。

②大学院教育との連携を図っていますか。

大学院（スポーツ健康学研究科）の開設に向けて準備中である

③採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

教員の採用・昇格の基準については、「教授会内規」を策定し教員の資格要件を踏まえて、求める能力・資質等を明らかにしている。

④組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。その体制について概要を説明してください。

組織的な教育を実施する上において教務委員会、資料室委員会を含む7つの学部内委員会を設置し、役割および責任の所在を明確にしている。

2.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。また、なぜそのように判断しましたか。

学部設置認可に至る過程で教員それぞれが担当科目について審査を受け、「ヘルスデザインコース」「スポーツビジネスコース」「スポーツコーチングコース」の3コースにおいて、それぞれに相応しい専門分野を持つ教員が均等に配置され教員組織が編成されている。2014年度大学評価報告書でも上記評価を受けている。

②特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

教員の採用・昇格の基準等については、「教授会内規」を策定し、教員の資格要件をふまえて、求める能力、資質等を明らかにしている。ただし女性教員比率の改善が課題である。

2.3 教員の募集・任免・昇格は適切に行われているか。

①各種規程は整備されていますか。

教員の採用に向けての募集・採用・昇格については「教授会内規」にしたがって行われる。

②規程の運用は適切に行われていますか。規程に沿った募集・任免・昇格のプロセスを説明してください。

専門分野や年齢構成等、偏った教員構成にならないよう、委員会設置→候補者選定→業績審査→教授会決定という一定の過程を設けている。

2.4 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。
①学部（学科）等内のFD活動はどのように行なわれていますか。具体的に説明してください。 春学期・秋学期の「授業見学ウィーク」のほか、学生による授業評価を踏まえた「授業運営に関する意見交換会」の機会も設けている。また、授業改善アンケート結果を教授会にて公表し、教員に授業改善の意識を持たせている。
<b>3 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針</b>
3.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。 スポーツ健康学習得に必要な習得すべき学習成果、卒業要件を明示した学位授与方針を設定できている。
3.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。 スポーツ健康学習得に必要な習得すべき教育課程の編成・実施方針を設定できている。
3.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
①どのように教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。 学部ホームページおよび募集要項により教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表している。
3.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
①教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。 各コース会議・教務委員会・教授会により教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性を検証している。
<b>4 教育課程・教育内容</b>
4.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
①学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性をどのように確保していますか。 当学部は2年次において「ヘルスデザインコース」「スポーツビジネスコース」「スポーツコーチングコース」の3コースから将来を見据えたコースを選択し、より専門性の高い授業を受講できるカリキュラム編成としている。 ②幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。 スポーツを広く文化としてとらえることで教養を深め人間性を涵養すべく、「視野形成科目」を全コースの必修選択科目と位置づけ、人材育成に取り組んでいる。
4.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
①学生の能力育成のために、どのような教育内容を提供していますか。教育課程・教育内容の特徴を説明してください。 2013 度より運用を開始した新カリキュラムが、目標通り学生の能力育成の観点から適切に教育内容が提供できているかを、順次検証している。 ②初年次教育、キャリア教育はどのように展開されていますか。 初年次教育としては、1年次の少人数クラスによる「スポーツ健康学入門」として、「読み・書き・コミュニケーション能力の向上」につながる授業を行っている。また、キャリア教育としては、教員がスポーツ・健康関連企業に関する情報提供や、「専門演習」「実習科目」を通してのインターンシップの奨励、サポートを行っている。 ③学生の国際性を涵養するためにどのような教育内容を提供していますか。 スポーツ先進国である米国の学習・研究環境・スポーツ文化に接することにより、国内とは別の視点で文化としてのスポーツを学際的に学習・研究するため、ボイシー州立大学での研修プログラムを提供している。
<b>5 教育方法</b>
5.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。
①学生の履修指導をどのように行っていますか。 学生への履修指導は、学年ごとに「新年度ガイダンス」「春学期終了ガイダンス」「秋学期終了ガイダンス」を開催している。各種資格については個別の「資格ガイダンス」を行い、必要に応じて学年を分けるなどきめ細かな指導に取り組んでいる。 ②学生の学習指導をどのように行っていますか。 学習指導については、通常授業・演習を問わず、授業内容が当学部の学生に共通する進路に関係するような場合は、学習意欲や進路を考える際の一助となるよう、公開授業にするなどの工夫をしている。また「専門演習」においてはインターンシップや現場実習も取り入れ、社会と密接に関わっているスポーツ・健康分野ならではの学習研究と、将来の目標設定を実践の中で並行しながら考えられるよう、多様な場や機会を設けている。また各教員のオフィスアワーを明確にしている。そ

れ以外の時間も、学生の研究室への訪問が容易になっており、履修相談・進路相談に随時、適切な対応を行っている。欠席の多い学生や、提出物に不備が多い学生には連絡・面接等を行い、学生の状況を常に把握するよう努めている。

③学生の学習時間（予習・復習）を確保するためにどのような方策を行なっていますか。

学生の学習時間（予習・復習）の確保については、シラバスの内容に沿って適宜、促している。

④教育上の目的を達成するため、新たな授業形態の導入に取り組んでいますか（PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。

特に実習科目においては、学生自身が考え、実践する中で知識や情報を得たり、学生同士で相互評価をするなどの活動を通して学習を深められるよう取り組んでいる。

5.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。

①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。

シラバスは、教員の専門分野において学生のレベルに沿った内容とするよう作成している。

②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。

スポーツ・健康のジャンルは現代社会に密接に関連していることから、実際の授業ではタイムリーなテーマを取り上げることもあるが、最終的には授業全体として目的に合致しているか否かを判断し、授業改善アンケート等を参考に、より適切な内容となるよう各教員が取り組んでいる。教職をはじめとする各種資格取得のために必要な科目については、資格ごとに必要な内容が授業に盛り込まれているか否かの確認を行っている。

5.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。

①成績評価と単位認定の適切性をどのように確認していますか。

成績評価と単位認定については、各教員がシラバスの記載に基づいて適切に行っている。

②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。

他大学における既修得単位の認定については、シラバスの内容を本学部の授業内容と照合し、詳細に検討して適切に実施している。

③厳格な成績評価を行うためにどのような方策を行っていますか。

成績評価を筆記試験だけでなく、通常授業時の小テストやアンケートなど、常に学生からのリアクションを得ることにより、理解度とともに物事に取り組む姿勢なども総合的に評価している。

5.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。

①教育成果の検証を学部（学科）ごとに定期的に行っていますか。

年度の初めに、前学年で開講された必修科目の内容について「専門知識習熟度テスト」を実施し、教育成果の定期的な検証を行い、この結果を教授会で共有している。

②学生による授業改善アンケート結果をどのように組織的に利用していますか。

授業改善アンケートの結果は執行部が確認し、必要に応じて対応するようにしている。

## 6 成果

6.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。

①学生の学習成果をどのように測定していますか（習熟度達成テスト等）。

年度の初めに、前学年で開講された必修科目の内容について「専門知識習熟度テスト」を実施している。教育成果の定期的な検証を行い、学習成果については、特に学生の課外活動等における自主的な取組への参加、また卒業研究の発表会によって行っている。

②成績分布、試験放棄（登録と受験の差）、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。

成績分布、試験放棄、進級状況については把握し、教授会において情報を共有している。

③学習成果をどのように可視化していますか。

年度の初めに、前学年で開講された必修科目の内容について「専門知識習熟度テスト」を実施し、得点の上位者を発表して表彰している。

④成績が不振な学生にどのような対応を行っていますか。

成績が不振な学生については、科目担当教員から事務を通して執行部に報告され、個別に対応している。

6.2 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。

①卒業、卒業保留、退学状況を学部（学科）単位で把握していますか。

退学・留年については、教授会において正確に把握し情報を共有している。

②学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。

1年生から3年生は取得を希望する資格の調査を行っている。4年生については、進路希望・内定獲得先・最終的な進路

を4月のガイダンス、夏休みに入る前、冬休みに入る前の3回調査を行い、集計結果を教授会において共有している。
<b>7 学生の受け入れ</b>
7.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。 求める学生像・修得しておくべき知識等の内容・水準について学部パンフレットにより周知を図っている。
7.2 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
①定員の超過・未充足にどのように対応していますか。 2015年度入試は、定員超過人数が7名となってしまったので、次回はより慎重に取り組む。
7.3 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的な検証を行っているか。
①学生募集および入学者選抜の結果についてどのように検証していますか。 入試経路別に成績を集計し、この結果を教授会で共有している。
<b>8 管理運営</b>
8.1 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。
①学部長をはじめとする所要の職を置き、また教授会等の組織を設け、これらの権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。 各コースにはコース長を設け、執行部とコース長で教務委員会を設けている。学部内委員会とともに教授会内規を整備し規則った運営が行われている。
<b>9 内部質保証</b>
9.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。
①質保証委員会は「果たすべき基本的な役割」に則して適切に活動していますか。 「授業見学ウィーク」の実施、兼任教員を含めた「懇談会」の開催等のほか、随時、教員同士で情報交換を行っている。学部内のPDCA体制として、「授業見学ウィーク」→「授業運営に関する意見交換会」→「懇談会」となるようスケジュールを組み、具体的に議論を進め改善につなげられるよう行っている。
②広義の質保証活動への教員の参加状況を説明してください。 この活動は原則として全教員が取り組んでいる。
<b>学生支援【任意項目】</b>
学生への生活支援は適切に行われているか。
・学部（学科）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。 新入生対象のスポーツ健康学入門を通して新入生全員の生活相談に取り組める体制を整えている。2年時以降は専門演習および執行部を通して、学生の生活相談に取り組んでいる。
<b>教育研究等環境【任意項目】</b>
図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。
・資料室や学科事務室等の図書資料は適切に整備されていますか。 学生にとっては立地的な制約もあり、資料室において図書等の整備に努めている。資料室に学部図書室の機能を持たせ当学部学生に開放することで有効に活用している。
教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
・ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）、技術スタッフなどの教育研究支援体制はどのようになっていますか。 実習・研究において専門的な機器が多くTAやRA、技術スタッフが現状では足りているとはいいがたい。大学院設置を視野に入れて、今後さらに強化していきたい。
研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。
・研究倫理に関する学内規程に基づき、規程の周知、研修会の開催等、研究倫理を浸透させるための取り組みを行っていますか。 学部内に学部独自の研究倫理委員会を置き、規程の周知を行っている。今後、研修会等を企画していきたい。
<b>社会連携・社会貢献【任意項目】</b>
教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
・教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動（シンポジウムや公開講座など）を行っていますか。 スポーツ研究センター・NPO法人法政クラブとともに地域住民を対象にした公開講座を実施している。

<p>・学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組みを行っていますか。 NPO 法人法政クラブ・エスフォルタアリーナ八王子と連携し、公開講座を実施している。</p> <p>・地域交流や国際交流事業に関する取り組みを行っていますか。 NPO 法人法政クラブ・エスフォルタアリーナ八王子と連携し、地域交流を目的とした公開講座を実施している。</p>	
現状分析根拠資料一覧	
資料番号	資料名
1 理念・目的	
1	スポーツ健康学部 理念・目的
2	スポーツ健康学部 HP 理念・目的. <a href="http://www.hosei.ac.jp/sports/shokai/rinen.html">http://www.hosei.ac.jp/sports/shokai/rinen.html</a>
2 教員・教員組織	
3	法政大学スポーツ健康学部（仮称）設置の趣旨等を記載した書類
4	教授会内規 スポーツ健康学部教授・准教授の任用（昇格）に関する基準
5	教授会内規 スポーツ健康学部専任教員の任用に関する基準
6	教授会内規 教務委員会
7	教授会内規 資料室委員会
3 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針	
8	スポーツ健康学部 学位授与方針
9	スポーツ健康学部 教育課程の編成・実施方針
10	スポーツ健康学部 HP 特色/カリキュラム <a href="http://www.hosei.ac.jp/sports/shokai/tokushoku/curriculum.html">http://www.hosei.ac.jp/sports/shokai/tokushoku/curriculum.html</a>
11	スポーツ健康学部 HP 学科紹介/カリキュラム <a href="http://www.hosei.ac.jp/sports/gakka/curriculum.html">http://www.hosei.ac.jp/sports/gakka/curriculum.html</a>
4 教育課程・教育内容	
12	2015年度 スポーツ健康学部 履修の手引き
13	スポーツ健康学部 HP コース紹介 <a href="http://www.hosei.ac.jp/sports/gakka/course/index.html">http://www.hosei.ac.jp/sports/gakka/course/index.html</a>
14	2015年度 スポーツ健康学部 シラバス
15	スポーツ健康学部 HP スポーツ健康学部海外課外研修 <a href="http://www.hosei.ac.jp/sports/ryugaku/kaigai_kagai/index.html">http://www.hosei.ac.jp/sports/ryugaku/kaigai_kagai/index.html</a>
5 教育方法	
14	2015年度 スポーツ健康学部 シラバス
6 成果	
16	2015年度ガイダンス期間スケジュール<2年生> 専門知識・習熟度テスト <a href="http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/sports/pdf/2015/2015schedule_2.pdf">http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/sports/pdf/2015/2015schedule_2.pdf</a>
17	2015年度ガイダンス期間スケジュール<2年生> 専門知識・習熟度テスト <a href="http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/sports/pdf/2015/2015schedule_3.pdf">http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/sports/pdf/2015/2015schedule_3.pdf</a>
7 学生の受け入れ	
18	スポーツ健康学部 HP 学部パンフレット. <a href="http://www.hosei.ac.jp/sports/shokai/pamphlet.html">http://www.hosei.ac.jp/sports/shokai/pamphlet.html</a>
8 管理運営	
19	教授会内規 教授会運営
6	教授会内規 教務委員会
教育研究等環境	
12	2015年度 スポーツ健康学部 履修の手引き
20	教授会内規 研究倫理委員会
社会連携・社会貢献	
21	法政大学スポーツ研究センターHP. <a href="http://www.hosei.ac.jp/taiku/rpes.html">http://www.hosei.ac.jp/taiku/rpes.html</a>
22	特定非営利活動法人法政クラブ HP. <a href="http://www.hosei-club.org/index.html">http://www.hosei-club.org/index.html</a>

### III. 学部(学科)の重点目標

教育成果の評価に必要となる卒業研究発表会の取り組みを重点目標とする。卒業研究発表会自体の学生による運営と全ゼミの卒業研究発表会の参加を促し活性化を図る。

### IV 2014 年度目標達成状況

No	評価基準	教育課程・教育内容
1	中期目標	2013 年度に実施した、学生モニター制度のグループインタビューによって浮かび上がった事項を順次解決する。
	年度目標	英語科目について、学生の学習意欲を刺激し、質の高い授業が展開できるように、クラス編成をはじめとする実施方法の改革を行う。
	達成指標	2015 年度より、新たな方法でクラス編成をした総合英語 I～IVを実施できるようにする。
	年度末報告	自己評価
理由		科目担当者よりの意見も参考にしながら、次年度新入生から、TOEFL の得点を利用した能力別クラス編成を実施する準備を整えた。なお、現 1 年生については、これまで通りのクラス編成で実施することにした。
改善策		時間割編成上、1 日に英語の授業が 2 回(1 時限目に総合英語 I、3 時限目に総合英語 II)となるクラスが生じることとなった。次年度の状況を確認し、別の日に分散するのがよいか否かを見極める必要がある。
No	評価基準	教育方法
2	中期目標	学部の理念・目的を常に意識し授業内容・授業の進行について配慮する。
	年度目標	受講者数制限のある実技・実習科目の質を向上させるため、学習意欲や当該科目が必修となる資格の取得の意思などを総合的に評価して選抜する方法を確立する。
	達成指標	2015 年度より、公平かつ質の高い授業実施に結び付けられる選抜方法を実施できるようにする。
	年度末報告	自己評価
理由		受講者選抜の際に使用する申込用紙を用いて、関係する資格の取得希望を確認するだけでなく、他の資格必修科目の単位取得状況と資格認定団体が指定しているテキストを持っているかを確認することで、資格取得の意欲(本気度)をより厳密に確認するようにした。
改善策		公平な選抜方法を確立したとしても、1 人の教員で対応できる人員には限界があるため、選抜にもれる受講希望者は少なからず出てしまうのが現状である。今後、受講者数を増やすためには、授業の質を確保するために助手の配置を検討する必要がある。
No	評価基準	成果
3	中期目標	学生一人ひとりが目標に適合した学習をし、4 年間の集大成として質の高い卒業研究に取り組めるように教員一丸となって指導する。
	年度目標	卒業研究発表会を、運営等にも学生が参画する、学部の重要な行事の一つとして定着させる。
	達成指標	2013 年度に試験的に行った卒業研究発表会を上回る数の演題を集めて、盛大かつ質の高い卒業研究発表会を開催する。
	年度末報告	自己評価
理由		昨年と程度の演題申し込みがあり、発表の質も向上した。また、優秀発表者への表彰も行うことにしたため、発表者のモチベーションも向上したものと考えられる。しかし、3 年生以下の参加が非常に少なく、会場は閑散としたものであった。昨年度は、3 年生に対して卒業研究を実施する予定の者には参加を義務付け、欠席する場合は理由の提出等を課したが、今年度はこれをしなかった。
改善策		当初、予定していた演題数を上回る発表申し込みがあり、せっかく申し込んだのに選抜して発表する機会を失わせるのは忍びないという事で全申込者が発表できるようにした。これにより、朝 9 時から夕方 6 時半まで、ほぼ休みなく発表が続くプログラムとなってしまった。次年度は、ゼミで選抜された者が学部の発表会で発表するなど、改めて検討する必要がある。

### V 2015 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・教育内容
1	中期目標	2013年度に実施した、学生モニター制度のグループインタビューによって浮かび上がった事項を順次解決する。
	年度目標	英語科目について、学生の学習意欲を刺激し、質の高い授業が展開できているかの検証を行う。
	達成指標	2015年度より開始された、新たな方法でのクラス編成による総合英語Ⅰ～Ⅳに対する教員・学生への調査を実施する。
No	評価基準	教育方法
2	中期目標	学部の理念・目的を常に意識し授業内容・授業の進行について、2013年度から始まった新カリキュラムの検証を行う。
	年度目標	受講者数制限のある実技・実習科目の質を向上させるため、効果的な授業運営のための方策を検証する。
	達成指標	2015年度の実技・実習科目の検証と同時に、2016年度より同科目の1クラス人数の適正・均等な開講を目指す。
No	評価基準	成果
3	中期目標	学生一人ひとりが目標に適合した学習をし、4年間の集大成として質の高い卒業研究に取り組めるように教員一丸となって指導する。
	年度目標	卒業研究発表会を、学生主体の運営形態に移行し、学部の重要な行事の一つとして定着させる。
	達成指標	卒業研究発表会へは全ゼミから発表者を出すこととし、学部の取り組みとして定着させる。

## VI 2012年度認証評価 努力課題に対する改善計画（報告）書

該当なし

## VII 大学評価報告書

大学評価委員会の評価結果への対応に関する所見	
<p>スポーツ健康学部では、2013年度に実施した学生モニター制度のグループインタビューによって浮かび上がった事項について、優先して取り組むべき課題等を明らかにし、着実に改善を図っている。具体的には、英語科目の能力別クラス編成の導入は、1年生を対象に4月実施のTOEFLの成績を基にして8クラスで4ランクくらいに分けている。受講者制限のある実技・実習科目の選抜方法のあり方については、2～4年生を対象に抽選で人数制限しており、教職を目指している学生や4年生は優先的に選抜している。卒業研究発表会は昨年度2回目を実施し、今年度は全ゼミ（各1～3演題）参加必須で実施、その運営は学生が実行委員会を設置して学生主体型で進めることとなっている。これらを年度目標に掲げながら改善に取り組んでいる点が評価できる。今後もこれらの課題についての継続的な改善と、その検証を期待したい。</p>	
現状分析に対する所見	
1 理念・目的	
1.1	<p>理念・目的は、適切に設定されているか。</p> <p>スポーツ健康学部の目指すべき方向は、従来の体育学および健康科学を基礎として、それらの知見も応用したスポーツビジネス領域を視野に入れた学問体系である。この独自の「スポーツ健康学」に基づく教育と研究の方向性を明らかにした理念・目的が設定されている。</p>
1.2	<p>理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。</p> <p>スポーツ健康学部の理念・目的は、教授会をはじめとする学部内委員会にて共有されている。また、学生には、これらが「履修の手引き」に教育方針として示され、その周知を図っている。さらに学部パンフレットやホームページ等により、広く社会にも公表されている。</p>
1.3	<p>理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。</p> <p>スポーツ健康学部の理念・目的の適切性は、教職員と学生の視点から検証が図られている。前者は、各コース会議、教務委員会および教授会である。後者は、学生との懇談会および卒業生アンケートにおいてである。さらに年1回の講師会（非常勤教員との懇談で、学生も入っている）や、学生10名程度を対象にした学生モニター制度（年2回）を利用している。</p>
2 教員・教員組織	
2.1	<p>学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。</p> <p>スポーツ健康学部では、学位授与方針、3コース制の編成などのカリキュラムを前提とした教員像・教員組織の編制方針を明らかにしている。</p>

<p>現在、大学院（スポーツ健康学研究科）の開設に向けて準備中であり、大学院設置準備委員会を設置している。今後の検討課題として、学部との連携のあり方について明確になることを期待したい。</p> <p>教員の採用・昇格においては、「教授会内規」によって、教員の資格要件を踏まえた求める能力・資質等が明らかになっている。</p> <p>組織的な教育を実施するために、7つの学部内委員会（教務委員会、資料室委員会、倫理委員会、紀要委員会、質保証委員会、広報委員会、専任教員任用委員会）を設置し、その役割および責任の所在を明確にしている。</p>
<p>2.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。</p> <p>スポーツ健康学部では「ヘルスデザインコース」、「スポーツビジネスコース」、「スポーツコーチングコース」の3コースにおいて、それぞれに相応しい専門分野を持つ教員が均等に配置され教員組織が編成されている。</p> <p>教員の資格要件を踏まえて、特定範囲の年齢に著しく偏らないように配慮している。ただし、学生男女比率 71%対 29%（456名：186名）に対して学部専任教員男性 15名：女性 2名であり、女性教員比率の改善が課題となっていることから、大学院開設後の 2017 年度より改善していくことが望まれる。</p>
<p>2.3 教員の募集・任免・昇格は適切に行われているか。</p> <p>スポーツ健康学部の教員の採用に向けての募集・採用・昇格については、「教授会内規」にしたがって行われている。</p> <p>募集・採用・昇格については、専門分野や年齢構成等、偏った教員構成にならないよう、委員会設置→候補者選定→業績審査→教授会決定と、一定の過程を設けて適切に行っている。さらに次回の採用計画からジェンダーバランスにも配慮するとしているのは適切である。</p>
<p>2.4 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。</p> <p>スポーツ健康学部の FD 活動は、「授業見学ウィーク」、学生による授業評価を踏まえた「授業運営に関する意見交換会」を月 2 回の教授会で開催、授業改善アンケート結果を教授会で公表するなど、教員に授業改善の意識を持たせるための FD が高く評価される。「意見交換会」では兼任講師の事や同一科目で違う教員が担当している場合の成績評価などが話し合われている。</p>
<p><b>3 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針</b></p>
<p>3.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。</p> <p>スポーツ健康学部では、スポーツ健康学を修めるために必要な学習成果、卒業要件を明示した学位授与方針を設定している。</p>
<p>3.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。</p> <p>スポーツ健康学部では、スポーツ健康学を修めるために必要な教育課程の編成・実施方針を設定している。</p>
<p>3.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。</p> <p>スポーツ健康学部では、ホームページおよび募集要項により教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を適宜周知・公表している。ホームページの更新は広報委員会委員長を中心に事務課 4 名が担当し、随時行っている。</p>
<p>3.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。</p> <p>スポーツ健康学部では、各コース会議・教務委員会・教授会により教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性について適宜検証している。</p>
<p><b>4 教育課程・教育内容</b></p>
<p>4.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</p> <p>スポーツ健康学部は、2 年次において「ヘルスデザインコース」、「スポーツビジネスコース」、「スポーツコーチングコース」の 3 コースから将来を見据えたコースを選択し、履修の手引きにそれぞれの履修モデルを示している。これにより専門性の高い授業を受講できる順次性・体系的性が確保されたカリキュラム編成となっている。</p> <p>また、「視野形成科目」を全コースの必修科目と位置づけることで、スポーツを広く文化としてとらえ、教養と人間性を深めるための人材育成に取り組んでいる。ただし、「視野形成科目」は 124 単位中 20 単位の 16%であり、もう少し履修させることを考えてもよいかもしれない。</p>
<p>4.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。</p> <p>スポーツ健康学部では、2013 年度より運用を開始した新カリキュラムが、目標通り学生の能力育成の観点からそれに合った教育内容が提供できているか、学生モニター制度やゼミ内での聞き取りで順次検証している。</p> <p>初年次教育としては、1 年次の小人数クラスによる「スポーツ健康学入門」として、「読み・書き・コミュニケーション能力の向上」につながる授業を行っている。また、キャリア教育としては、教員がスポーツ・健康関連企業に関する情報提供や、「専門演習」を通してのインターンシップ（八王子法政クラブなど）の奨励・サポートを行っている。国内研修ワークショップ</p>



履修者（健康指導士取得のための科目）22名＋スポーツ現場実習14名＝36名、エスフォルタアリーナ八王子（法政クラブのサポートスタッフ）講座各2～3名×15＝30名くらいで、ビジネス系中学の外部指導員も含めると、参加学生数はかなりの数に上る。

アメリカのボイシー州立大学における研修プログラムで、スポーツ先進国の学習・研究環境・スポーツ文化に触れ日本とは異なる視点でスポーツを学際的に学習・研究することが可能となっている。ボイシー州立大学には2011年度から5年間派遣している。午前中英語授業、午後学内外ワークショップ（実技系や体育・フィットネス施設見学など）である。3年生対象だったが、現在は2～3年を対象にしている。最大で22名派遣し、単位化はされていないが、参加希望者は多い。

## 5 教育方法

### 5.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。

スポーツ健康学部における学生への履修指導は、学年ごとに「新年度ガイダンス」「春学期終了ガイダンス」「秋学期終了ガイダンス」において行われている。各種資格については個別の「資格ガイダンス」を行い、必要に応じて学年を分けるなど、きめ細かな指導が実施されている点が評価できる。

学生への学習指導については、通常授業・演習を問わず、公開授業にするなどの工夫や「専門演習」においてはインターンシップや現場実習を導入するなど、多様な場や機会を設けている。また各教員のオフィスアワーの明確化やそれ以外の時間も学生の研究室への訪問を容易にするなど、履修相談・進路相談に随時、適切な対応を行っている。教員が週間予定を研究室の扉に張って、学生のアクセスを容易にしていることは学生の立場に立ったやり方で評価できる。また、欠席の多い学生や、提出物に不備が多い学生には連絡・面接等を行い、必修科目を連続3回休んだ学生は呼び出して面談するなど、学生の状況を常に把握し、個別の状況に応じた適切な指導を行っている点が高く評価できる。

学生の学習時間（予習・復習）の確保については、シラバスの内容に沿って適宜、促している。

特に実習科目において、学生自身が考え、実践する中で知識や情報を得たり、学生同士で相互評価をするなどの活動を通しての学習を深められるような取り組みを図っている。実習科目の選抜はGPAや専門知識習熟度テストを利用しており、実習結果は試験で把握している。

### 5.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。

スポーツ健康学部において、「シラバスは、各教員の専門分野において学生のレベルに沿った内容とするように図っている」とのことであるが、その適切性については教務委員会等での検証が望まれる。

授業改善アンケート結果等を参考にして、より適切な内容となるよう各教員による取り組みを図っている。教職をはじめとする各種資格取得のために必要な科目については、その資格取得に必要な学習内容が授業に盛り込まれているか否か、確認を行っている。シラバスは教授会で、GPA、GPCAを参考にして、検証している。

### 5.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。

スポーツ健康学部においては、各教員がシラバスの記載に基づいて適切に行っている。

また、他大学における履修単位の認定については、シラバスの内容を学部の授業内容と照合し、詳細に検討して適切に実施しているが、実質的には、現在まで転編入受験者は1名のみであった。

成績評価は、定期試験結果はもとより、授業内に実施される小テストの結果も加味して行っている。また、授業内のアンケートを通じて学生の理解度や物事に取り組む姿勢なども総合的に把握するように努めていることは評価できる。

### 5.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。

スポーツ健康学部では、年度の初めに、前年度に開講された必修科目の内容を「専門知識習熟度テスト」として実施し、教育の理解度・定着度を定期的に検証している。このテストの受験者は100%で、結果は個別シートを作成し、ゼミの担当教員または事務課から渡している。さらに、この結果を教授会で共有している点は、他の学部・学科の参考となる有効な取り組みであると考えられ高く評価できる。

また、授業改善アンケートについては、執行部が確認し必要に応じて対応するようにしている。

## 6 成果

### 6.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。

スポーツ健康学部では、年度の初めに、前年度に開講された必修科目の内容を「専門知識習熟度テスト」として実施している。合格点というものはないが、選択科目の履修などにフィードバックしている。教育成果の定期的な検証を行い、学習成果については、特に学生の課外活動等における自主的な取り組みへの参加、また卒業研究の発表会によって行っている。

成績分布、試験放棄、進級などの状況を把握し、教授会において情報を共有している。

年度の初めに、前年度の必修科目の内容について「専門知識習熟度テスト」を実施し、得点の上位者を発表して表彰するなどの学習成果を可視化する取り組みを積極的に行っている点は、高く評価できる。

成績不振学生については、科目の担当教員から事務担当を通じて、スポーツ健康学部執行部に報告される。それを受けて、

個別にきめ細かく対応する取り組みを行っている。
<b>6.2 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。</b>
退学・留年については、教授会において正確に把握し情報を共有している。 1年生から3年生への資格取得の希望調査、4年生については、進路希望・内定獲得先・最終的な進路調査を適宜行っており、集計結果を教授会において共有化するなど、学生の状況をきめ細かく把握することに努めている。具体的には、2012年度149名卒業中、教員9名、スポーツ関連就職者14名。2013年度194名卒業中、教員7名、スポーツ関連就職者21名。2014年度卒業生189名中、教員14名、スポーツ関連就職者22名という結果になっている。
<b>7 学生の受け入れ</b>
<b>7.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。</b>
スポーツ健康学部では、求める学生像・修得しておくべき知識等の内容・水準を定めた学生の受け入れ方針を、大学ホームページや学部パンフレットにより適宜周知を図っている。
<b>7.2 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。</b>
2015年度入試では、入学定員超過人数が7名となっており、定員超過率は104%である。定員管理は適切に行われている。スポーツ健康学部では、今回はより慎重に取り組むこととしている。
<b>7.3 学生募集および入学選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。</b>
スポーツ健康学部では入試経路別の成績を集計し、その結果を教授会で共有している。
<b>8 管理運営</b>
<b>8.1 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。</b>
スポーツ健康学部では、執行部と各コースのコース長による教務委員会、学部内委員会とともに、教授会内規を整備し、規定に則った運営を図っている。
<b>9 内部質保証</b>
<b>9.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。</b>
スポーツ健康学部において、教員が質保証活動に参加する一連の取り組みは評価できるが、教授会の中の一議題として開催することが多く、今年度は質保証委員会をまだ開催していないとのことであり、教授会とは別に委員会を開催し、2014年6月26日の学部長会議で承認された「質保証委員会の果たすべき基本的な役割と活動について」において示された質保証委員会の機能に沿って実施してもらいたい。 また、教員が質保証活動に参加するような工夫として、「授業見学ウィーク」→「授業運営に関する意見交換会」→「懇談会」という流れを作っている点は、高く評価できる。
<b>学生支援【任意項目】</b>
学生への生活支援は適切に行われているか。
スポーツ健康学部においては、新入生対象のスポーツ健康学入門を通して新入生全員の生活相談に取り組める体制を整えている。
<b>教育研究等環境【任意項目】</b>
図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。
スポーツ健康学部では、その立地条件から資料室に学部図書室の機能を持たせ、学生に開放することで有効に活用している。図書館までの距離は遠いが、資料室にない本は図書館を利用するように学生に勧めている。
教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
スポーツ健康学部では、実習・研究において専門的な機器が多く、TAやRA、技術スタッフが不足しているので、スタッフの増強を強く要望している。今後は大学院設置も視野に入れて、充実した体制を構築していくこととしている。
研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。
スポーツ健康学部内に学部独自の研究倫理委員会を設置し、随時開催している。また、規程の周知を行っており、評価できる。
<b>社会連携・社会貢献【任意項目】</b>
教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
スポーツ健康学部では、NPO 法人法政クラブ・エスフォルタアリーナ八王子とともに地域住民を対象にした公開講座を実施している。スポーツ研究センター主催や、法政クラブ主催の事業（テニス、バドミントン、陸上競技、ジョグ&ロード、サッカー、バスケットなど）を開催し、教育研究成果を基にした社会へのサービス活動を行っている。
<b>その他法令等の遵守状況</b>

特になし
<b>2014年度目標の達成状況に関する所見</b>
<p>スポーツ健康学部では、2013年度に実施した学生モニター制度のグループインタビューによって浮かび上がった事項について、順次解決することを中期目標として掲げている。2014年度には、英語科目の能力別クラス編成の導入、受講者制限のある実技・実習科目の選抜方法の改善の検討、卒業研究発表会の充実を図るなどを年度目標に掲げ、着実に改善を図っている点が評価できる。</p>
<b>2015年度中期・年度目標に関する所見</b>
<p>スポーツ健康学部では、2013年度に実施した学生モニター制度のグループインタビューによって浮かび上がった事項について、順次解決することを中期目標として掲げている。2015年度は、英語科目における新たなクラス編成による成果の検証、受講制限のある実技・実習科目の見直しとその検証、卒業研究発表会を学部の重要な行事として充実を図るなどを年度目標に掲げており、浮かび上がった課題に対して継続的、組織的に改善を図っている点が、適切であると判断される。これらの取り組みを着実に検証し、学部の教育活動にフィードバックしていくことを期待したい。</p>
<b>認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見</b>
該当なし
<b>総評</b>
<p>スポーツ健康学部では、2013年度に実施した学生モニター制度のグループインタビューによって浮かび上がった事項について、学部内における協議を通して、継続的、組織的に改善を図っている。それらをもとに、自己点検・評価活動に積極的に取り組んでいることを評価したい。また、学生の状況に合わせたきめ細かな教育指導がなされている点も合わせて評価したい。今後、これらの取り組みを着実に検証し、学部の教育活動にフィードバックしていくことを期待したい。</p> <p>さらに教員が学部の質保証活動に参加する一連の取り組みは評価できるが、質保証委員会の機能が不明確であり、本委員会の学部における自己点検・評価活動の役割を明示する必要があると考える。</p>